

ブックちゃんの

2024年6月1日発行

ふじのみや探検

第43号 富士川のひみつ



発行：富士宮市立中央図書館 〒418-0067 静岡県富士宮市宮町13-1 TEL:0544-26-5062 FAX:0544-26-1284



富士宮市の南西を流れる富士川。富士川の上流部は釜無川と笛吹川で、その二つが合流して、富士川と呼んでいます。長さは128 kmです。かつては、大河といわれて、日本の※三大急流の一つでしたが、現在、流量が少なくなり、急流のおもかげはありません。しかし、富士川には、

歴史に登場するひみつもたく

「明星山から見た富士川」 埋蔵文化財センター提供
さんあります。そのひみつをさぐっていきましょう。

※三大急流とは、最上川（山形県）、球磨川（熊本県）、富士川のことです。

♪霊峰富士を仰ぎつつ 流れも速き富士川の……♪と内房小学校の校歌にもうたわれています。

ひみつ1 富士川をなんと読むの？

みなさんは、富士川をなんと読んでいますか？「ふじかわ」ですか。「ふじがわ」という人もいます。平家物語では、「ふじがわ」です。辞書によって、「ふじがわ」と読むもの「ふじかわ」と読むものと2種類あります。「富士川楽座」「旧富士川町」（現富士市）は「ふじかわ」です。国が出している川の名前の一覧では、「ふじかわ」です。また、「ふじかわ」の場合、「じ」にアクセントをおいて読みませんか？「ふじがわ」の場合は、割合、平坦な読み方です。

万葉集（奈良時代）に、「不尽河（富士川）と 人の渡るも その山の 水のたぎちぞ」（富士川と呼んで人の渡るのも、その山（富士山）から流れ出る激流だ）と富士川が登場します。更級日記（平安時代）に「富士川といふは、富士の山より落ちたる水なり」（富士川というのは、富士の山から下ってくる水の流れだ）とあります。万葉の時代から何となく富士川は、富士山から流れている川だと思われていました。

身延に住んだ日蓮上人（日蓮宗を始めた人）は、手紙で、この川のことを「河はやく石多ければ、舟破れて微塵となる」（川の流れは速くて石が多いので、船が石にぶつかってこなごなになるほどだった）と書いています。富士川は、現在と違って、あらあらしい川だったのです。また、一遍上人というお坊さんの絵巻物（鎌倉時代）には、この富士川を舟で渡っている様子が描かれています。「十六夜日記」（鎌倉時代）には、富士川の流れが、下流では現在のように1本ではなく、15本に分かれていたと書かれています。

この富士川にかかわる歴史的なできごとを、ひみつ2でさぐっていきましょう。

その1 富士川の合戦

源氏と平氏の戦いのことです。1180年10月20日富士川をはさんで、源氏軍は東岸側に、平氏軍は西岸側にいました。その日の夜、武田信義（源氏軍）が、ひそかに平氏の陣を後ろからおそおうとしたところ、富士沼（現在の富士市「平家越え橋」付近）に集まっていた水鳥の群れがいつせいに飛び立ちました。この羽の音が軍勢の音のように思われて、おどろいた平維盛などの平氏軍は、夜が明ける前にあわてて京都に逃げてしまいました。「平家物語」（鎌倉時代）には、「富士川の瀬々の岩超す水よりも早くも落ちる伊勢平氏かな」（富士川の流れのはやさより早く敗走する平氏たちよ）と急いで逃げる様子が書かれています。源氏軍が勝利した戦いでした。

この戦いの翌日、源氏軍の大將の源頼朝は、初めて平泉（岩手県）からかけつけた弟の源義経と会います。このとき二人が腰をかけたと言われている対面石が、静岡県清水町八幡の八幡神社に残されています。



「平家越」の碑（後方に平家越え橋があります）

その2 富士川の舟運^{しゅううん}

1607年、徳川家康に命令されて、角倉了以が甲斐（山梨県）や信州（長野）からの年貢米を江戸（東京）に届けるようにするため、富士川を舟で通れるようにしました。舟が通るのにじゃまになる岩などを削る工事をしたのです。こうして、「下げ米 上げ塩」といって、下りは年貢米、上りは塩などの海でとれるものを運んでいました。



「舟運復元の様子」
歩く博物館パンフレットより

どのように運航していたかという、上流（山梨県）から下流（静岡県）に向けて、竹ざおをついて、岩をさけながら下りました。流れにのって下るので、楽なように思えます。しかし、下流に向けて舟をこぐのは危険がともなうものでした。たとえば、旧芝川町の釜口峡あたりは、川幅がせまくなるため、流れが速くなり岩にぶつかるなどの危険がありました。事故が多い場所の一つで、アクバ（悪場）といっ、船頭たちはおそれました。亡くなられた人も多くいます。そのためこういう場所には、舟の安全をいのって、また、水難者をとむらって石塔が建てられました。では、上流に向けて舟をこいだのでしょうか？正解は、3～4人くらいが、川岸を縄で引っ張っていきました。出発地の岩淵（富士市）から終点の鰍沢（山梨県）まで、3～5日ほどかかりました。下りなら、半日ほどですから、大変な力仕事ですよ。沼久保地区には、この舟運の舟場（荷物の発着所）が、逢来橋左岸にありました。現在の「沼久保水辺の楽校」付近です。沼久保には、荷物を取りあつかう問屋や船宿（旅館）ができ、大宮町まで荷物を運ぶ人などもいて多くの人でにぎわいました。

江戸時代から明治時代にかけて活躍した舟運ですが、鉄道（中央線 身延線）ができてからは、物資の輸送が鉄道に移っていき、舟運はおとろえ、その役割を終えていきました。

ひみつ3 静岡県内の富士川をさかいにして東側と西側で違うことってどんなこと？

その1 周波数（ヘルツ Hz）^{ヘルツ}

周波数が違います。周波数は、糸魚川（新潟県）と富士川を結ぶ線がさかいとなっており、富士川東側は50Hzで、富士川西側は60Hzです。富士宮市でみると内房地区が60Hzで、それ以外は50Hzとなります。周波数については、電気器具の裏に50/60Hzと書かれているのを見たことはありませんか？これは、50Hzと60Hzのどちらの周波数でもこの器具は使用できるということを表しています。

なぜ、日本の中に2つの周波数があるのでしょうか。実は、明治時代に日本が電力事業を始めたとき、関東地方はドイツから50Hzの発電機を、関西地方はアメリカから60Hzのものを輸入したからだと言われています。また、富士川より東側が東京電力（株）で、西側が中部電力（株）となっています。

その2 道祖神の数

周波数の違いほど厳密ではありませんが、道祖神が多いか少ないか、です。富士川東側の富士宮市には400近い数の道祖神があります。一方、富士川西側の内房地区にはありません（道の神である猿田彦の神をまつた碑のように石碑などがあります）し、松野や静岡市清水区にはごくわずかしがありません。道祖神は、村の守り神で、悪い霊や病気を追い払ってくれると信じられていました。富士川西側では、この道祖神の信仰がうすかったから道祖神がないといわれています。また、富士川の急流が、東西の交流をさまたげたからともいわれています。このように富士川をさかいにして違うことをさがしてみると面白いですよ。※道祖神については「ふじのみや探検第11号」も見てください。

ひみつ4

大もじり 漁って何？

「もじり」は魚をとるための道具で、竹をかご状に編んだものです。富士川では、大きなもじりを使った漁が行われました。もじりの長さは、2m70cmほどで、口は、1m20cmもあり、作るのに3人で3～4日かかります。これを上流に口を向けて3人がかりでかけました。この漁の最盛期は10月で、うなぎ、あゆなどがとれましたし、冬から春にかけては、モクズガニもとれました。とれた魚は、売ったり、自宅で



「大もじり」

食べたり、近所に配ったりしました。大きなもじりを使う漁は、1981年にゴムボートで川下りをした人が、もじりの中に入って亡くなられるという事故が起きたため、それ以降見かけられなくなりました。

『第43号・富士川のひみつ』は、次の資料を参考にして作りました。

- 1 『富士宮市ホームページ』 富士宮市教育委員会文化課 埋蔵文化財センター2011
- 2 『辞林 21』三省堂 1993 『日本国語大辞典第二版』小学館 2001 『広辞苑第七版』岩波書店 2018 『大辞林第四版』三省堂 2019
- 3 『日本文学全集 03(更級日記)』河出書房 2016
- 4 『平家物語 [二]』祥伝社 2015.11.10
- 5 『現代語訳 吾妻鏡 1』吉川弘文館 2007.11.10
- 6 『一遍上人絵伝』中央公論社 1984.11.30
- 7 『富士川—その風土と文化—』遠藤秀男 1981.1.8
- 8 『富士宮市歩く博物館/パンフレット』富士宮市教育委員会文化課 埋蔵文化財センター 2023
- 9 『沼久保区誌』沼久保区 1997.2.14
- 10 『日本の川 河川名一覧』国土交通省ホームページ 2023
- 11 『富士川と通船の歴史』静岡県富士県行政センター 1997.3.
- 12 『富士宮市の道祖神 改訂版』富士宮市教育委員会 2013
- 13 『民俗漁労調査 富士川もじり (資料)』

